

www.jwing.net
mail@jwing.net



オーストラリア 教育旅行特集

SDGsに 貢献できる体験を





総論

オーストラリア教育旅行特集

オーストラリアへの教育旅行で養う、グローバルズム SDGsに貢献できる体験プログラムにも注目

学生のうちに海外へ飛び出し、グローバルな感覚を体感することは極めて貴重な。その機会こそ海外修学旅行であり、留学だろう。直行便就航都市が6つもあるオーストラリアは、教育旅行において確固たる強みを持っている。安全性や充実の学習素材、SDGsやSTEM^{*1}を盛り込んだ体験プログラムなど、正確な情報を教育現場に伝え、高い学習効果を得られる教育旅行を実現へと導きたい。

修旅・研修共に公立校が大幅増

文部科学省の調査によると、2017年度の高校生による海外修学旅行は、前回調査した2015年度と比較して9.1%増の17万9910人だった。また高校生の海外への研修旅行は35.2%増の4万2793人で、大幅に増加している。

海外修学旅行の内訳は、公立高校の学校数が511校で2015年度比10.4%増、生徒数が7万6458人で同15.8%増。私立高校の学校数817校(同1.7%増)、生徒数10万2538人(同4.8%増)に比べて伸び率が高いのが目につく。また、行き先は34カ国・地域に渡り、上位5カ国は台湾、アメリカ、シンガポール、オーストラリア、マレーシアとなっている。

3カ月未満の海外研修旅行については、行き先は55カ国・地域。上位5カ国は1位のオーストラリアが1万888人で同31.8%増、以下2位アメリカ9123人(23.6%増)、3位カナダ4438人(27.2%増)、4位イギリス3395人(6.8%減)、5位ニュージーランド2959人(18.0%増)だった。オーストラリアは公立、私立、国立ともに1位。また海外研修旅行においても、公立高校は学校数で私立高校を抜き、生徒数も私立高校に肉薄している。

日本から6都市へ直行便

オーストラリアには、教育旅行に適した都市がいくつもあるのが特徴の一つ。日本修学旅行協会の調査によると、2017年度の「海外語学研修旅行の主な訪問都市」ベスト12には、ブリスベン、シドニー、メルボルン、ケアンズ、ゴールドコーストの5都市が入っている。しかもこの5都市はいずれも日本からの直行便が就航しており、今年9月にANAが開設した成田ーバース線を含めると日本から直行便が飛ぶオーストラリアの都市は6都市にも及ぶ。

在福岡オーストラリア総領事館の松本文仁商務官は、「相次ぐ直行便の就航で座席が確保しやすく、また渡航スケジュールの選択肢が増えた」と評価。日本の就航都市が東京と大阪に偏っている点についても、「アジア経由でオーストラリアへ入るルートもあるが、国内で乗

り継げる安心感がメリットとなる学校もある」と話しており、今後は九州の学校でも東京経由オーストラリアを選ぶ学校が増える可能性もあるという。

また、羽田空港の国際線発着枠が拡大することで、来年夏季スケジュールからは羽田発着の新しい路線が開通される見通し。教育旅行をよりスムーズに、確実に実施できる土台がさらに固まりつつある。



©Gold Intercultural Learning

柱は安全性と充実の体験プログラム

また、海外で何かあると修学旅行や研修旅行を国内へ切り替えてしまう学校も多いなか、「オーストラリアへの教育旅行はここ5年間右肩上がりの状態が続いている」と松本氏。オーストラリアでの修学旅行を何年も継続している学校や、研修先だったオーストラリアを修学旅行先に変えた学校など、オーストラリアでの教育旅行を成功させ、実績を積み上げている学校が増えている。

オーストラリアが教育旅行に適している理由は多々あるが、なかでも安全性と体験プログラムの充実が大きいと松本氏。「教育の現場が教育旅行を考える時に基本とするのがこの2つで、オーストラリアはここが揺るがない」。加えて、ホームステイやファームステイ、学校交流が盛んで、大型グループの受け入れができることもオーストラリア教育旅行の大きな魅力になっている。

かつての海外修学旅行は、国内修学旅行の行き先が海外になっただけという時代もあった。しかし修学旅行を研修旅行と呼ぶ学校も増え、核となる要素は「観光」から「体験」へ完全にシフトしていると言っていいだ



う。「SSH^{*2}やSGH^{*3}、あるいはIB^{*4}でも海外研修はスタンダードになっている」(松本氏)と言い、一般の高校でも修学旅行や研修旅行では観光よりも、大学で実際の授業を受けるといった体験が人気のプログラムになっている。

教育旅行にSDGsを

2015年に国連サミットで発表されたSDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)。普段の教育や教育旅行のテーマとして取り入れている学校もあり、今注目を集めている。

南半球に位置するオーストラリアには、日本にはない自然環境があり、固有の動植物が生息しているのは周知の通り。環境保護、天然資源やエネルギー面での取り組みにおいて先進国であり、都市開発や農業、科学の分野でも学ぶべき要素が多い。SDGsのテーマがいくつも当てはまるこうした学習素材は、各地で教育プログラムとして整備されているのもオーストラリアの強みだ。

また、教育旅行の価値が体験重視となった



©Gold Intercultural Learning

今、英語を母国語とする国に行くだけでなく、その国の同世代と英語で深く交流することも求められている。ホームステイやファームステイ、学校交流に力を入れているオーストラリアでは、英語4技能の「話す」ひとつをとっても、「プレゼンテーション」と「会話コミュニケーション」を実践する場があり、まさに身になる研修を行うことができる。

こうした情報を正確に収集するには、オーストラリアの各州政府観光局が実施している教育旅行セミナーや教員向け研修旅行が有効だ。例えば、九州の学校を対象に3年連続で研修旅行を実施している西オーストラリア州政府観光局は、今年全国の学校を対象に視察ツアーを催行。6日間の日程にSDGsやSTEMプログラムを取り入れており、サステナブルな視点でスケジュールを組んだ。

^{*1} STEM: STEM(ステム)はScience(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Mathematics(数学)の頭文字。子供の頃からAIやIT技術に触れ、自分で学ぶ力をつける新しい時代の教育方法で、STEM教育として導入され始めている。

^{*2} SSH: スーパーサイエンスハイスクール 先進的な理数教育を実施する高等学校等を指定。令和元年現在212校に上る。

^{*3} SGH: スーパーグローバルハイスクール 国際的に活躍できるグローバルリーダーの育成を行う高校を指定。2016年度で123校に上る。なお2019年7月、文科省はSGHの実績を活用したWWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業を公表。拠点校として10校を指定した。

^{*4} IB: 国際バカロレア IB(International Baccalaureate)は国際バカロレア機構が提供する教育プログラム。世界で通用する大学入試資格が与えられる。

オーストラリアが教育旅行先にも選ばれる理由

10の理由

1 アクセス

日本の3主要空港から6都市へ直行便

ケアンズ
ブリスベン
ゴールドコースト
シドニー
メルボルン
パース

QANTAS Jetstar JAPAN AIRLINES ANA australia

- ヴァージンオーストラリアは2020年3月29日から羽田ーブリスベン間でデイリー運航
- カンタス航空は2019年12月16日から2020年3月28日まで札幌ーシドニー間で週3便運航
- 2020年は羽田とオーストラリア間に新たな新路線が開通され、ますます利便性が高まる。

2 治安

治安・衛生・医療に安心感

先進国でもトップクラスの治安の良さを誇る。食事や宿泊施設などの衛生管理も整っており、医療水準も高い。

5 多民族

多民族・異文化を肌で実感

人種の異なる人々が互いの文化を理解・尊重している国は、学生にとって大いに刺激的。グローバルな視野を啓発する最良の機会だ。

8 世界遺産

世界最多の自然遺産を誇る

複合遺産を含む自然遺産の数が世界最多。世界最大級の一枚岩や珊瑚礁、熱帯雨林、奇岩群など、体験学習の場としても価値が高い。

3 気候

広大な国にさまざまな気候帯

日本とは季節が逆。北部は1～3月が雨季だが、熱帯雨林の景観が鮮やか。南部の主要都市は温暖で、1年を通じて湿度も低く快適だ。

6 英語圏

交流を通じ学習意欲を刺激

異民族同士による会話が早いことから、英語が分かりやすく、非英語圏の人たちに対する態度も寛容。生きた英語を実践できる。

9 ハード

受け入れ施設に豊富な選択肢

エコノミーからラグジュアリーまで、予算やグループの規模に応じて選択できる宿泊施設が充実。ホームステイ&ファームステイも人気だ。

4 時差

時差ボケなしで無駄なく行動

日本との時差は東部が+1時間、西部が-1時間。夏時間でも最大時差は2時間なので、体調に無理のない日程を組むことができる。

7 学習素材

独自の素材を多彩にアレンジ

他の国では見られない大自然や固有の動植物、先住民アボリジニの歴史や文化など、興味深い題材が豊富にそろそろ。

10 ホスピタリティ

本物の交流を体験

二国間は良好な関係にあり、オーストラリアには親日家も多い。日本人や日本語に対する関心も高く、交流も深めやすい。

表紙写真提供: 上段左上から時計回り/ビクトリア州政府観光局、西オーストラリア州政府観光局、タスマニア州政府観光局(©Hype TV)、ニュー・サウス・ウェールズ州政府観光局、クイーンズランド州政府観光局、南オーストラリア州政府観光局、ノーザンテリトリー州政府観光局(©Tourism NT/James Fisher)



実施校レポート

オーストラリア教育旅行特集

千葉敬愛高等学校

大型グループ受け入れ可能な ファームステイが魅力

千葉県、四街道市に位置する千葉敬愛高等学校は、大正14年創立の関東中学校を基とする歴史ある私立校。高校2年生で実施する修学旅行の行き先は、1998年から約20年に渡り海外だ。2018年から行き先をゴールドコーストに変更した理由や具体的な学習効果について、国際交流部部長の高橋正治先生に聞いた。



DATA	
行き先	クィーンズランド州ブリスベン、ゴールドコースト
期間	①2018年11月26~30日、 ②2018年11月28日~12月2日 (3泊5日、機内1泊)
人数	①237名 ②234名 2年生合計471名

2018年から ゴールドコーストへ

千葉敬愛高校は1994年にシドニーにある2つのハイスクールと姉妹校となり、長年に渡り修学旅行をシドニーで行ってきた。しかし、2013年からの5年間は燃油サーチャージの値上がりなどで一時期シンガポールへ行き先を変更していたという。

2018年から再びオーストラリアへ、しかもブリスベンとゴールドコーストに変更したのは、クィーンズランド州政府観光局主催の教育旅行セミナーに出席したのがきっかけという。「500名規模の生徒を受け入れるホームステイやファームステイのプログラムがあり、体験型で付加価値の高い研修を実現できることが決め手になりました」と高橋先生。同校ではこの20年、「出会い、触れ合い、違いの発見」をテーマに海外への修学旅行を行ってきた。また海外修学旅行は観光から体験へとその内容がシフトしていることから、行き先をブリスベンとゴールドコーストに変更する運びとなった。

ファームステイで実感、 大きな成長

同校の修学旅行は2班に分けて行われ、それぞれ230名以上の大型グループとなる。この度はゴールドコーストから車で約1時間のボーデザートでファームステイを行い、生徒3~6名のグループを60のファームが2泊ずつ受け入れた。

各ファームでは動物への餌やり、野菜や果物の収穫といった農作業に加え、ピクニック



クyaバーベキュー、ブーメラン投げやムチならしなどを体験し、充実の時間を過ごしたという。「ファームステイは英語でのコミュニケーションやグループ内での協力といった学びの要素に多様性があり、「今後の成長」につながる実践の場になった」としている。

これまでの修学旅行でも、生徒が印象的だったと語るのには観光地より現地の人々との交流が多く、ファームステイ体験はこれまで以上の効果をもたらしている。実際に同行した学年主任の先生によると、2日間のファームステイが終わった後は生徒たちの表情が変わり、大きな成長を感じたという。またホ

ストファミリーとのコミュニケーションを通して異文化に興味をもったり、英語学習へのモチベーションが上がり進路について真剣に考えたりと、生徒の主体性を育む修学旅行になったとしている。

今後も継続して オーストラリアへ

ファームステイ以外の1日はクラス別研修と班別研修が行われた。クラスではシーワールドやムービーワールドのテーマパークを訪れ、班別研修ではサーファーズパラダイスを散策したグループが多かったが、十分な時間が取れなかったのが課題。「今年はテーマパークのほかにシュノーケリングのような海のアクティビティも取り入れる調整をしました。2020年は1泊増やしてクラス別、班別の研修時間をよりしっかり確保する予定」と高橋先生。

さらに、「バディをつけたり、2校同時に受け入れできるという学校交流を来年は復活させたい」としている。同校では2020年以降もブリスベンとゴールドコーストで修学旅行を実施していく意向だ。



国際的な開発目標SDGsと教育旅行

SDGsは国際社会全体で取り組む目標だ。そのためには政府だけでなく、社会のあらゆる組織が積極的に関わることが期待されている。教育現場においても同様で、教育を通してSDGsの達成に貢献する感覚を身に付けることはこれからの学生にとって有意義であり重要だろう。すでに多くの学校ではSDGsの各テーマを取り入れたワークショップやイベント、プロジェクトなどが行われているが、教育旅行もここで遅れをとってはならない。

17の目標で理想の社会に

2015年9月の国連サミットで採択されたSDGsは Sustainable Development Goalsの略で、日本語では「持続可能な開発目標」という意味。「誰一人取り残さない(no one left behind)」社会の実現のため、国連に加盟している193カ国が2030年までの15年間で達成する目標だ。

具体的な17の目標を設定し、貧困や飢餓、健康や教育、エネルギー、経済、気候、自然、平和といった多岐に渡るテーマが掲げられている。

17の目標は、1つにつき約10のターゲットが細かく打ち出されており、合計169のターゲットが存在する。そのターゲットの下には232の指標があり、開発途上国への支援のみならず、先進国のエネルギー問題や経済成長、ひいては地球規模での気候変動など、持続可能で多様性のある社会を実現するための包括的な目標となっている。

SDGsをテーマに活発な議論を

教育旅行とSDGsを関連づける上で、テーマにしやすいのは4の教育や14の海洋資源、15の陸上資源などだろう。しかし松本氏は「教育旅行の観点から見ると、4、5、10が興味深い」と指摘する。

例えば4は「質の高い教育をみんなに」が目標。しかし「質の高い」における共通認識は国によって異なってくる。日本なら「学びの機会均等」というところを、オーストラリアなら「どれだけ個の力を伸ばすか、どれだ

け留学生を受け入れてダイバーシティを高めるか」が共通認識になる。5のジェンダーは日本なら「女性の社会進出」となるところだが、オーストラリアでは女性の社会進出も男性の育休も当たり前。10の不平等における移民政策1つとっても、日本とオーストラリアではまったく異なる状況にある。

こうした共通認識の違いをリサーチし、現地の学生と意見交換して互いに発見し合う、そんなプログラムをオーストラリアなら学校交流や大学の授業参加などで容易に組むことができる。今後、日本でもSDGsは教育素材や教育プログラムとより密接に関連していくだろう。そうなれば、SDGsの先進国オーストラリアでの修学旅行や研修旅行をよりユニークで意義深いものにしていくことができそうだ。





オーストラリアの世界遺産 / オージー・スペシャリスト・プログラム (ASP)

オーストラリア教育旅行特集

オーストラリアの世界遺産

オーストラリアの世界遺産は今年新たに「バジ・ビム文化的景観」が加わり、全部で20件となった。とりわけ複合遺産を含めて自然遺産が16件と多く、広大な珊瑚礁群や世界一大きな一枚岩、太古の熱帯雨林など自然のあるがままの姿を留めている。



- クイーンズランド州**
 - ① グレート・バリア・リーフ 自然遺産 / 1981年登録
 - ② オーストラリア・ゴンドワナ多雨林 自然遺産 / 1986・1994年登録
 - ③ クイーンズランドの湿潤熱帯地域 自然遺産 / 1988年登録
 - ④ フレーザー島 自然遺産 / 1992年登録
 - ⑫ オーストラリアの哺乳類化石地域 (リバースレー) 自然遺産 / 1994年登録 ※南オーストラリア州のナラコートとともに登録された化石発掘地域
- ニュー・サウス・ウェールズ州**
 - ⑤ シドニー・オペラ・ハウス 文化遺産 / 2007年登録
 - ⑥ グレーター・ブルー・マウンテンズ地域 自然遺産 / 2000年登録
 - ⑦ ロード・ハウ諸島 自然遺産 / 1982年登録
 - ⑧ ウィラントラ湖群地域 複合遺産 / 1981年登録
- ビクトリア州**
 - ⑨ ロイヤル・エキシビション・ビルとカールトン庭園 文化遺産 / 2004年登録
 - ⑩ バジ・ビム文化的景観 文化遺産 / 2019年登録

- タスマニア州**
 - ⑩ タスマニア原生地域 複合遺産 / 1982・1989年登録
 - ⑪ マッコリー島 自然遺産 / 1997年登録
- 南オーストラリア州**
 - ⑫ オーストラリアの哺乳類化石地域 (ナラコート) 複合遺産 / 1982・1989年登録 ※クイーンズランド州のリバースレーとともに登録された化石発掘地域
- 西オーストラリア州**
 - ⑬ シャーク・ベイ 自然遺産 / 1991年登録
 - ⑭ パヌル国立公園 自然遺産 / 2003年登録
 - ⑮ ニンガルー・コースト 自然遺産 / 2011年登録
- ノーザンテリトリー**
 - ⑯ カカドゥ国立公園 複合遺産 / 1981・1987・1992年登録
 - ⑰ ウルル・カタ・ジュタ国立公園 複合遺産 / 1987・1994年登録
- 州外 / 複数の州に点在**
 - ⑱ ハード島とマクドナルド諸島 自然遺産 / 1997年登録
 - ⑲ 囚人遺跡群 文化遺産 / 2010年登録



グレート・バリア・リーフ



シドニーオペラ・ハウス



ウルル・カタ・ジュタ国立公園



シャーク・ベイ



バジビム文化的景観



タスマニア原生地域



オーストラリアの哺乳類化石地域 (ナラコート)



オージー・スペシャリスト・プログラム (ASP)

ASPで気軽に情報のアップデートを <https://www.aussiespecialist.com/ja-jp>



教育旅行に人気のプログラムを学習

「オージー・スペシャリスト・プログラム (ASP)」は、オーストラリア政府観光局が開発した業界専門のオンライン学習プログラム。魅力あるデスティネーションにも関わらず、専門知識が少ないために販売・営業方法に困っている方にお勧めだ。最初に必須プログラムを受講し、残りのプログラム (州別/目的別) から2つ以上受講すると「オージー・スペシャリスト」に認定さ



れる仕組みだ。教育旅行で人気のオーストラリア固有の動物と触れ合ったり、先住民アボリジニの文化を体験できる施設を紹介するプログラムなど、提案したい内容に合わせて学習を進めることができる。近々、目的別プログラムとして「カルチャー・アトラクションズ・オブ・オーストラリア」プログラムも追加される予定。各州にある文化やアートを体験できる施設について知ることができる。

プログラム以外にも資料が充実

また、スマートフォンやタブレット端末にも対応しているので、通勤時間や休み時間などの空き時間を利用していつでもどこでも無料で学習が可能。学習プログラムは自動的にセーブされるので、途中から再開できるのも嬉しい機能だ。サイト内には提案資料で使えるイメージギャラリーや便利マップ、基本情報、よくある質問と回答などの資料も充実している。プロダクト

動画ではプロモーション動画や、ASP用に制作されたプロダクトの紹介動画が見られる。これを見ておけば実際に参加したことがあるかのように自信をもって案内ができる。他にも提案に役立つ現地の最新情報を毎月ニュースレターで配信。各州の最新情報をいち早く得ることができるよ

ウェビナー始まる!

2019年9月よりオージー・スペシャリスト向けにウェブセミナー『ウェビナー』がスタート! なかなかセミナーに参加できなかったという人も、パソコンがあれば受講できるのが魅力だ。州ごとの最新アップデートや特別テーマなど毎月1~2回程度実施しており、担当部署や企画に合わせて受講できる。見逃してもASPサイトで後からの視聴も可能。受講申込は毎月スペシャリスト宛に届くウェビナーニュースレターから!



うになっている。オージー・スペシャリストに認定後は個人で使用できる現地ホテルやオプションツアーの特別優待や、ASP限定イベントやセミナーのインビテーションがある。最近では個人だけでなく、研修として活用する旅行会社も増えてきている。



クイーンズランド州
QUEENSLAND

オーストラリア教育旅行特集

エコスタディツアーや SDGs組み込みプログラムで学ぶ 体験学習で養う考える力と英語力

グレートバリアリーフや熱帯雨林など複数の世界自然遺産があることでも分かるように、自然環境に恵まれているのがクイーンズランド州の特徴の一つだ。だからこそ自然環境を守り、次世代へつないでいこうという意識が強く、環境科学や自然科学関連の若者向け教育プログラムが数多く開発・運営されている。現地でこうしたプログラムに参加すれば、環境意識や持続可能な開発(SDGs)への理解を高められる。同時に英語力向上のモチベーションにもつながることも期待できる。

国立公園モートン島のタンガルーマでエコスタディ

ブリスベンの沖合35kmにあるモートン島は世界で3番目に大きな砂島。これほどのスケールがありながら砂だけで出来ている不思議な島を訪れるだけでも、大自然に対する特別な思いや環境保護に対する考え方を刺激する体験となる。さらに、この島にあるタンガルーマ・アイランド・リゾートに滞在すれば、環境教育や自然科学教育に効果的な学習プログラムを経験できる。

政府の厳格な管理下にある国立公園モートン島に立地するタンガルーマ・アイランド・リゾートでは、島の貴重な自然を守るための活動や環境保護活動、環境教育に力を入れており、エコ・エデュケーションセンターも併設。世界各国から年間2万人以上の若者がこの施設を訪れ環境学習している。



日本からの教育旅行の受け入れも、2015年約2400名、2016年約2600名、2017年約3200名と年々増加しており、文部省認定のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)校やスーパーグローバルハイスクール(SGH)校も数多く訪れている。

豊富なエコスタディプログラム

タンガルーマ・アイランド・リゾートではこの島ならではの貴重な自然環境を生かしたエコスタディプログラムが豊富に用意されているのが特徴だ。世界でも珍しい野生イルカへの餌やりが体験でき、砂だけでできた特異な島の成り立ちを地学的な観点で学ぶプログラムもある。野生ペリカンへの餌付けや、希少動物のジュゴンを観察するクルーズ、星空や夜行生物の観察体験とプログラムは多彩だ。また島内のリゾートが、電気や上下水道といったインフラを、環境保護と両立する形でどう維持しているかを学ぶこともできる。さ



らに広大な砂丘での砂滑りといった娯楽性の高いプログラムを織り交ぜられるのも特徴だ。

人気のクイーンズランド大学 共同プログラム

このように豊富なエコスタディプログラムを生かしつつ、さらに教育効果を高める学習プログラムも用意している。なかでも日本の高等学校に人気が高いのは、クイーンズランド大学での講義を組み合わせるプログラム。世界



大学ランキングのトップ100に常時ランクインする同大学のブリスベン・キャンパスで、モートン島の成り立ちや周辺の海洋環境などについての約1時間のレクチャー(通訳付き)を受けてから、モートン島に渡る流れとなる。大学での事前学習によりモートン島での実地体験の学習効果が一段と向上する。

エコ・エデュケーションセンター基点の班別実験プログラムを組むこともできる。たとえば機材を持参し、南半球の赤外線強度や北半球と異なる太陽の動きを観測した事例もある。またモートン島の環境破壊と保護の現状について、センターのスタッフが講師としてプレゼンを行い、終了後に講師と英語でディスカッションする場を設けることも可能で、SSH校が実施したこともある。

グローバルリンク・ クイーンズランドも開催

タンガルーマでは、世界から学生が集結して環境問題について意見交換を行う海外交流イベント「グローバルリンク・クイーンズランド」が年に一度開催されており、2019年度はオーストラリア、中国、日本から、中学生、高校生合わせて約80名が参加。学生たち大変貴重な体験を提供するイベントとなっている。

タンガルーマ・アイランド・リゾート
www.tangalooma.jp

ケアンズでアカデミック・スタディ・プログラム

バンノーライントーナショナルグループはオーストラリアを代表する教育旅行プログラムの運営事業者の一つだ。創業23年の同社は教育旅行プログラムの運営だけでなく、ファームステイやホームステイの手配も行っている。



このため同社の提供するプログラムは、ファームステイやホームステイと現地校での授業参加を組み合わせたり、英語レッスンやエコ



教育を組み合わせたりもできる。

同社が最近力を入れているのが、国連で決議された持続可能な開発(SDGs)に対応した教育プログラムだ。SDGsは地球環境を守るため2030年までに達成すべき目標として17項目を挙げており、この目標を正しく理解し、体験を通じてSDGsを推進する力を養うためのプログラムを若者に提供することを目指している。

SDGs対応のプログラムを提供

SDGsに対応する教育旅行プログラムとしてバンノーライントーナショナルグループが開発したのがアカデミック・スタディ・プログラム(ASP)だ。国連が定めたSDGsの17目標を組み込んだ体験型プログラムがASPで、単にプログラムに17目標を取り込むのではなく、参加者を目標達成に向けた行動に導くように工夫している点が最大の特徴。次世代のリーダーたちにポジティブな影響を与えることを重視した内容で「人生を変える経験を創造し、生涯の友情を築き、一生の思い出を作る」を目標としている。

単なる理解だけでなく行動にまで導くための工夫としては、たとえば体験型アクティビティに進む前の事前学習にも時間を割き、体験からより多くを学び理解できる準備をきちんと整える。また体験型アクティビティの中身も、水質調査やグレートバリアリーフ評価プログラ



ムへの参加、さらには能動的な姿勢を引き出すボランティア体験などを組み合わせる構成している。

8日間プログラムの場合

ケアンズで用意されているASPのうち、7泊8日間プログラムの場合、SDGs17項目のうち



9項目を組み込んでいる。1日目は日本語ガイドの空港出迎えからホストファミリー宅でのウェルカムディナーまででプログラムを終了。2日目から本格的な体験プログラムがスタート。植物



識別やサステナビリティに関する専門家の講義を受け、オプションでホームレスの人々への食事提供のボランティアに参加することもできる。

3日目からは大自然へ飛び出し、グレートバリアリーフでの海洋保全プログラムへの参加とサンゴ礁の調査、世界遺産の熱帯雨林での森林再生プログラム参加などを2日間にわたって体験する。

5日目からの3日間では、現地の行政機関を訪問し環境の持続可能な管理手法を学び、野生動物のボランティア活動に参加し餌やりなどを手伝うほか、ファームステイでの農場体験を通じ土地管理などについても学ぶ。

最終日の8日目はアサートン高原のダム湖に足を延ばし、再生可能エネルギーへの理解を深めたり、現地の動植物に関する調査を行ったりする。

バンノーライントーナショナルグループ
www.banoragroup.com

INFORMATION

クイーンズランド州・教員向け視察旅行のご案内

クイーンズランド州政府観光局では2020年3月に教員向けの視察旅行を行う予定で参加者を募集しております。詳しくは下記までお問い合わせください。

日程(予定) 2020年3月22日~27日 先行 プリスベン(モートン島を含む)及びゴールドコースト

お問い合わせ先電話番号 03-5404-7162(担当・柴田) E-mail shozo.shibata@queensland.com

西オーストラリア州

ロットネスト島



自然の島で学ぶエネルギーや環境保護

パースの沖合に浮かぶロットネスト島はA級自然保護指定の国立公園。再生可能エネルギーに注力していることで知られ、風力や太陽光で島の電力の約45%を供給している。また、飲み水以外の水は海水を淡水化して使用しているエコアイランド。教育旅行グループには、エコパワーを学ぶツアーをはじめ、ビーチの清掃ボランティア、植樹プログラム、サイクリングで行うオリエンテーリングなどのプログラムを多数用意。

Rottneest Express <https://www.rottnestexpress.com.au/>



班別行動にも最適なエコパワー学習

バンバリー・ドルフィン・ディスカバリー・センター



野生のイルカと一緒に泳ぐ体験を

パースから南へ約90分、イルカをはじめとする海洋生物や環境を学ぶことができる施設。小学生から高校生まで学年別に分けた教育プログラムを用意しており、国内の学校グループも数多く受け入れている。展示を見るだけでなく、レクチャーを受けたり海洋生物に触れることで科学や生物学への理解が深まると評判。また、ドルフィンウォッチングツアーやイルカと一緒に泳ぐプログラムも人気で、教育旅行グループにも最適だ。

Bunbury Dolphin Discovery Centre (DDC) <https://dolphindiscovery.com.au/>



地元の教育旅行グループも多数訪れる

南オーストラリア州

アデレード



線路を走る高速バスに学ぶ環境学

アデレードにはバス専用道路を走るオーバーン(O-Bahn)バスが運行している。渋滞回避や高速輸送、環境保護の目的があり、世界でも珍しい。教育旅行グループには、約40分のレクチャーと実際に12kmのトラックを乗車できるプログラムが用意されている。ツアーオペレーターのアデレード・ジャパン・デスクで手配しているもので、同社ではほかにもプラスチックボトルを有用な製品にリサイクルする工場見学のアレンジも可能だ。

Adelaide Japan Desk <https://www.adelaidejapandesk.com.au/>



カーボンニュートラルで騒音軽減も実現

カンガルー島



野生の固有種間近にフィールドワーク

野生動物の宝庫カンガルー島では、アシカの繁殖地シールベイやコアラの保護区などでオーストラリアの固有動物についてフィールドワークができる。教育旅行グループにはリサーチセンターでのソーラーパネル発電や雨水の浄化などの環境学プログラムもおすすめ。アデレードと本拠地とするツアーオペレーター、バニックトラベルでは、ほかにも学校訪問や企業訪問、市内探検などさまざまな教育旅行向けプログラムを日本人スタッフを通じて手配することが可能だ。

Bunnik Travel <https://bunniktravel.net/>



野生のアシカが生息するシールベイ

ビクトリア州

フィリップアイランド・ネイチャーパーク



ボランティアで動物&環境保護を体験

メルボルンから130km南東に位置するフィリップ島は、野生動物の宝庫。世界一小さいワトモペンギンを観察することで知られている。同島のネイチャーパークでは教育旅行プログラムに力を入れており、中でも人気なのがワイルドライフ保護プログラムだ。パークレンジャーによるレクチャーや彼らとの英語によるコミュニケーション、保護動物の巣箱作りがセットされており、具体的な環境保護活動を体験することができる。

Phillip Island Nature Parks <https://www.penguins.org.au/>



4,5名のグループで行うペンギンの巣箱づくりに熱中

ビクトリア州宇宙科学教育センター



宇宙科学も学べるSTEM施設

メルボルン郊外のストラスマアに位置する州立のSTEM専門施設。日本のJAXAがスポンサーとなっており、2006年のオープン以来、ビクトリア州の数学、科学、技術、工学の学習体験を牽引している。学生グループには、「鉱物サンプルの採取」や「探査機の故障修理」といった体験学習プログラムがおすすめ。なかでも宇宙服を身に付けて行う「ミッション・トゥー・マーズ」で火星での任務を遂行するプログラムが人気だ。

Victorian Space Science Education Centre <https://www.vssc.vic.edu.au/>

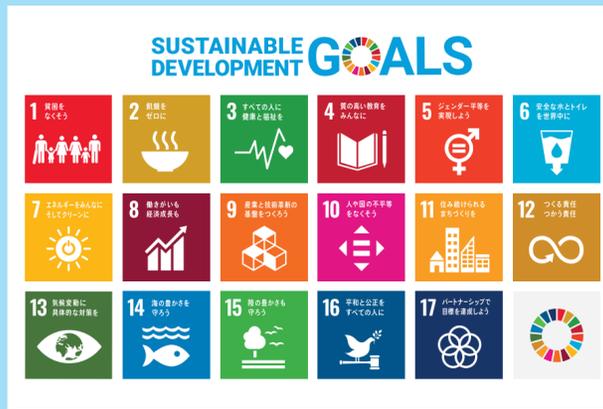


宇宙服を着てミッションに挑戦

オーストラリアの学習素材 豊富にそろそろ教育旅行プログラム

体験で学ぶオーストラリアの 自然、環境、動物、科学、歴史、エネルギー

学習素材の宝庫ともいえるオーストラリア。大都市からアクセスできる場所に観光ポイントや施設があり、各所で自然や動植物、科学、歴史などを学ぶことができる。ここでは、各州の政府観光局がSDGsの17のテーマを含むおすすめのエデュケーション素材をピックアップ。いずれも現地スタッフとのコミュニケーションや小グループで行うフィールドワークを通じ、協調性や積極性も養えるプログラムが整備されている。



タスマニア州

ボノロング野生動物保護区



動物保護や島ならではの生態を学ぶ

ホバートの北、車で約30分の野生動物保護区。かつては動物公園だったが現在は保護動物を野生に戻す活動を24時間体制で行っている。運営資金には入園料が充てられるため、訪れる人が多いほど動物も多く救われる仕組みだ。学生グループには1日3回実施される45分のツアーがおすすめ。コアラやカンガルーだけでなく、ウォンバットやタスマニアデビルなどタスマニアならではの野生動物の生態を学ぶことができる。

Borong Wildlife Sanctuary <https://www.borong.com.au/>



この島にしか生息しないタスマニアデビル

ポート・アーサー・ヒストリック・サイト



壮絶な歴史が刻まれた世界遺産を探訪

ホバートから約60km、タスマン半島にあるポート・アーサーは多くの犯罪者が送られた流刑地があった場所。本島と離れていることや海にサメが生息していたことなどから、「脱出不可能な監獄」といわれていた。史跡には刑務所跡や独房、教会、病院などたくさんの建物や廃墟があり、学生グループはガイド付きウォーキングツアーで巡るのがおすすめ。ここで亡くなった人を埋葬した死者の島フェリーで渡ることもできる。

Port Arthur Historic Site <https://portarthur.org.au/>



囚人遺跡群として2010年に世界遺産に登録された

ノーザンテリトリー

ダーウィン軍事博物館



戦争の事実から両国の友好を実感

第二次世界大戦時の旧日本軍によるダーウィン空襲の詳細を知ることができる博物館。当時の写真を用いたショートムービーでは史実に基づいた歴史を知ることができ、展示室では武器や軍服、写真などを通して戦争の歴史に迫ることができる。現在両国は友好関係にあることから、敷地内には日本庭園が造られており、戦車や大砲、トラックなどの実物が展示されている。中でも日本の攻撃に備えて造られた9.2インチ砲のレプリカが圧巻だ。

Darwin Military Museum <http://www.darwinmilitarymuseum.com.au/>



本物の戦車や大砲を間近で見ることができる

トップ・ディジタル・カルチャー・エクスぺリエンス&アートギャラリー



アボリジニの多様な文化に触れる

ダーウィンの南部、キャサリンに位置し、先住民コミュニティの協力の下、2009年に設立された施設。火起こしや槍投げといった先住民アボリジニの文化体験を通して彼らの伝統的な生き方に触れ、また現代の生活について話を聞くこともできる。アートギャラリーでは地元のアーティストによる作品の展示から、このエリアに何千年前から暮らしている人々の文化の多様性を学ぶことができる。

Top Didj Cultural Experience Art Gallery <https://topdidj.com/>



アボリジニの雇用という役割も果たしている

クィーンズランド州

カランビン・ワイルドライフ・サンクチュアリ



野生動物の保護や園内リサイクルでSDGsを推進

ゴールドコースト南部にあるナショナルトラスト傘下の野生動物保護園。オーストラリアの固有種や鳥類の飼育に加え、毎年1万1000匹以上の野生動物を無償で保護・治療している。野生動物病院の見学やSSH向けプログラムが充実しているほか、ペットボトルや水の再利用、園内マップのリサイクルといった取り組みからSDGsの推進が読み取れる。動物病院の治療費を基金へのサポートや入場料などの収益から捻出しているのも興味深い。

Currumbin Wildlife Sanctuary <https://currumbinsanctuary.com.au/>



野生動物病院の見学

レインフォレストেশション・ネイチャーパーク



熱帯雨林ツアーと植樹プログラムを

CaPTAグループが運営する熱帯雨林のテーマパーク。コアラやカンガルーと触れ合ったり、アボリジニ文化を体験することができる。人気は水陸両用の軍用車、アーミーダックで園内を巡るツアー。教育旅行グループにはこのツアーと植樹プログラムの組み合わせがおすすめ。植樹は一人1本でもグループ1本でも可能で、参加者は全員に個人名入りの証明書が発行される。なお、SDGsを意識した取り組みとして、電動バスの運行、排水処理などにも取り組んでいる。

Rainforestation Nature Park <https://www.rainforest.com.au/>



植樹プログラムに参加

ニュー・サウス・ウェールズ州

オーストラリアン・レプタイル・パーク



舞台裏ツアーで爬虫類に接近

シドニーから北へ車で約1時間の動物園。コアラやカンガルーといったオーストラリアならではの動物に加え、ワニやイグアナ、ヘビ、トカゲなどの爬虫類を多く飼育している。教育旅行には約90分のVIP舞台裏ツアーがおすすめ。経験豊富なアニマルキーパーと共に爬虫類の部屋で餌やりをしたり、150匹以上のヘビの部屋を訪れたりなど、日本ではできない体験が待っている。タスマニアデビルの繁殖施設を見学できるのも興味深い。

Australian Reptile Park <https://reptilepark.com.au/>



大きな爬虫類を素手で触れる貴重な機会

エコトレジャーズ



ウォーキングツアーで学ぶ自然や生態系

シドニーとその周辺を舞台にエコツーリズム体験を提供しているエコトレジャーズ。シドニーからフェリーで約30分で行くことができ、マンリービーチを歩くマンリー・コースタル・ウォーキングツアーが人気だ。地元で精通したガイドが歩きながらオーストラリアの動植物や海洋生物、サーフィンの歴史などを解説してくれる。国立公園内のコリンズビーチでは、プラスチックのゴミを集めるアクティビティで、海洋ごみが生態系に及ぼす影響を考える。

Ecotreasures <https://www.ecotreasures.com.au/>



季節によってはクジラを見ることもできる



ニュー・サウス・ウェールズ州
NEW SOUTH WALES

オーストラリア教育旅行特集

ノース・コーストとセントラル・コーストの旅



セルフドライブで州北部のノースコーストを南下してきたら、ポート・マッコリーからシドニーに向けてさらに海沿いを南へ移動しよう。ポート・ステープンスでイルカに遭遇し、ハンター・バレーでは熱気球に大興奮。セントラル・コーストでは大自然の中を馬に揺られて散歩する癒しの時間を過ごすことができる。

詳しい情報は jp.sydney.com で。



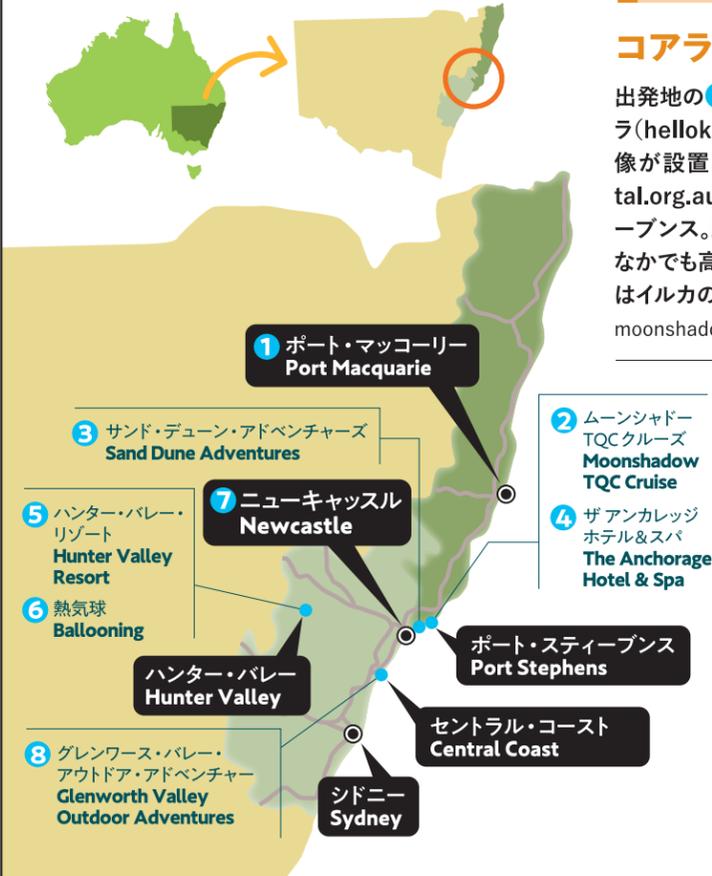
ポート・マッコリー ▶ ポート・ステープンス

コアラの街からイルカの街へドライブ

出発地の①ポート・マッコリーはコアラの街として知られるビーチリゾート。「ハロー・コアラ(hellokoalas.com)」と呼ばれるプロジェクトにより、街なかにペイントを施したコアラ像が設置されていたり、里親制度を推進している「コアラ・ホスピタル(koalahospital.org.au)」などがある。一方、美しいビーチとマリンスポーツで知られるポート・ステープンス。野生動物の宝庫でもあり、湾内に約150頭のバンドウイルカが生息している。なかでも高い確率でイルカに遭遇できるという②ムーンシャドウTQCクルーズのドルフィン・ウォッチングが人気。同社にはイルカの生態についてレクチャーしてくれる日本人の海洋生物学者がおり、教育旅行グループに最適だ。
moonshadow-tqc.com.au



野生のイルカを間近に



③ サンド・デューン・アドベンチャーズ Sand Dune Adventures



©Destination Port Stephens

広大な砂丘をバギーで疾走

ポート・ステープンスは南半球最大級といわれる砂丘でも有名。ウオレマイ保護区にあるストックトン・ビーチの砂丘がそれで、海沿いに見渡す限りの砂の丘が広がっている。ここではサンド・デューン・アドベンチャーズが主催する4WDバギーで疾走するアクティビティがおすすめ。免許がなくても、経験がなくても体験できる。

sandduneadventures.com.au

④ ザ アンカレッジ ホテル&スパ The Anchorage Hotel & Spa



高級リゾートで上質な滞在を

目の前にヨットハーバーを望むウォーターフロントのラグジュアリーリゾート。海沿いに建つ低層階の建物にロフトスイートや高級ヴィラなど全80の客室が並び、白を基調とした部屋は清潔感と開放感にあふれている。新鮮なシーフードが味わえる2つのレストランとバー、最高級のスパが自慢だ。

www.anchorageportstephens.com.au

ポート・ステープンス ▶ ハンター・バレー

ワイナリーでアクティビティ&空中散歩を

ポート・ステープンスから西へ車を走らせると、ニュー・サウス・ウェールズ州随一のワイン産地、ハンター・バレーにたどり着く。ここではワインや美食に酔いしれるだけでなく、思い切り体を動かすアクティビティで汗を流したい。拠点としておすすめのハンター・バレー・リゾートにはワイナリーならではのプログラムが用意されていて、思わず童心に帰ることができる。ここでは熱気球体験も必須だ。



見渡す限りのブドウ畑に佇むリゾート

⑤ ハンター・バレー・リゾート Hunter Valley Resort

広大なブドウ畑の中に建つ家族経営のリゾートホテル。セラーダアやレストラン、スパ、テニスコート、シアターなどの施設も備え、乗馬、セグウェイ、クッキングスクールなどのアクティビティが豊富だ。なかでも、樽転がしやブドウ踏みといった仲間うちで盛り上げられるアクティビティもグループならアレンジ可能。

www.hunterresort.com.au

⑥ 熱気球 Ballooning



雄大なワイナリーを空から堪能

ハンター・バレーで外せないアクティビティといえば熱気球。夜明けとともに出発し、上空から朝日に染まるワイナリーを眺める感動を体験したい。飛行時間はたっぷり1時間で、子供でも安心して参加できる。着陸後の朝食も楽しみだ。

Hunter Valley Ballooning
huntervalleyballooningco.com
Balloon Aloft
www.balloonaloft.com/locations/hunter-valley/experience

ハンター・バレー ▶ セントラル・コースト

おしゃれタウンでグルメ、緑の森で乗馬

ハンター・バレーから再び海へ出たら、シドニーに向かう前にニューキャッスルとセントラル・コーストに立ち寄ろう。ニューキャッスルは州で2番目に大きな街。商業都市として発展しているが、サーフィンのメッカでもある。セントラル・コーストでは雄大な大自然の中でワイルドな乗馬体験を楽しみたい。



センスが感じられるニューキャッスルの街並み

⑦ ニューキャッスル Newcastle

シドニーから車で約2時間のニューキャッスルは、ハンター・バレーやポート・ステープンスへの拠点となる街。次々と新しいホテルやレストラン、カフェがオープンし、最先端のグルメがおしゃれな雰囲気の中で楽しめる。サーフィン保護区のメイウェザー・ビーチでは、毎年2月に国際大会が開かれることでも有名だ。

www.visitnewcastle.com.au



サーフィンの聖地でもある

⑧ グレンワース・バレー・アウトドア・アドベンチャー Glenworth Valley Outdoor Adventures

セントラル・コーストからゴスフォードの街を経由した内陸に位置する国内最大級の乗馬センター。約200頭の馬を飼育しており、広大な渓谷や森林の中を馬で散歩できる。乗馬だけでなく、カヤックや四輪バイク、アブセーリング、ブッシュ・ウォーキングなど多彩なアクティビティがそろっているのも魅力だ。

glenworth.com.au

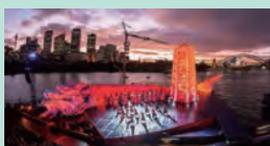


シドニーから日帰り乗馬を

イベントに行こう!

ハンダ・オペラ・オン・シドニーハーバー Handa Opera on Sydney Harbour

オペラ・ハウスとハーバーブリッジ、シドニーの2大アイコンをバックに上演される恒例のオペラ。シドニー湾の海上にステージと約3000名収容の客席が設けられ、「カルメン」や「アイダ」、「椿姫」といった名作が上演される。ダイナミックな屋外演出はスケール感たっぷり。上演時期は毎年3月下旬から4月下旬。オペラ・オーストラリア <https://opera.org.au/sydney>



屋外の舞台ならではの迫力

ビビッド・シドニー Vivid Sydney

毎年5月下旬から6月中旬にかけて行われる南半球最大級の光と音とアイデアの祭典。シドニーオペラ・ハウスをはじめとする歴史的建造物にプロジェクション・マッピングが映し出されたり、街の至る所に展示される光のインスタレーションを「体験」することができる。この時期、ビビッド・シドニー目的でシドニーを訪れる人が増えた。 <http://www.vividsydney.com/>



毎年趣向が変わるビビッド・シドニー



ビクトリア州
VICTORIA

オーストラリア教育旅行特集

高い教育レベル すぐそばに大自然！

メルボルンへは、直行便で便利にアクセス

教育旅行の目的地として人気の高いオーストラリア。なかでもビクトリア州は、高い学習効果を求める教育旅行に最適だ。教育レベルの高さはオーストラリア随一。さまざまな文化が共存する世界有数の多文化都市、州都メルボルンでのグローバル体験だけでなく、メルボルンから少し足を伸ばしただけで、大自然が広がる。日本からメルボルンへは、直行便を使えばノンストップでアクセス、大変便利だ。



ビクトリア州、メルボルンへの教育旅行をおすすめする5つの理由

1 世界で一番住みやすい都市「メルボルン」

メルボルンはビクトリア州の州都で、19世紀の面影を残した建造物と近代的な建造物が融合した街並みが魅力の都市。別名「ガーデンシティ」とも呼ばれるほど緑豊かな公園が点在し、イギリスの雑誌エコノミストの調査部門がまとめている「世界で最も住みやすい都市」ランキングでは2011年から2017年まで7年連続で1位に選ばれているほど。治安の良さ、医療水準や教育の高さ、文化、インフラなど、安心／安全もお墨付き。

2 すぐ近くに豊かな自然

オーストラリア本土で一番小さいビクトリア州に位置しながら、豊かな自然が広がり、四季の変化により季節ごとにユニークな体験ができるメルボルン。郊外の観光地へのアクセスが良いため移動時間が少なく、滞在時間を有効的に活用できる。リトルペンギンを観察できるフィリップ島、「世界一美しい海岸線」と言われるグレートオーシャンロードや緑豊かで広大な牧草地帯など、メルボルンを少し離れただけでオーストラリアらしい豊かな大自然に触れることができる。

3 直行便でアクセスが大変良い

現在、カンタス航空と日本航空が東京(成田)ーメルボルン間の直行便を毎日運航中。乗り換え不要のノンストップで、メルボルンへのアクセスはとっても便利。他都市からでもアジア経由便で便利にアクセス可能だ。

4 市内中心エリアのトラム乗車が無料

トラム(路面電車)は、メルボルンを代表する公共交通機関。トラムに乗れば市内ほとんどの観光スポットを巡ることができる。乗り方も容易なので、初めてメルボルンを訪れる人でも気軽に利用できる。市内中心区域、及びドックランド地区内で全てのトラムの乗車は無料。市内の外周を循環するシティサークルトラムと合わせて、リーズナブルでより充実した市内観光やオリエンテーションを提供できる。

5 大変親日的なメルボルン

メルボルンには親日家が多く、日本の地方自治体や学校との交流も盛ん。日本語教育も進んでおり、また小学校から大学まで、多くの学校で日本語を教えている。日本語は最も人気のある第2外国語だ。



「Study Melbourne」からのおすすめプログラム

高校生・大学生向け教育旅行のテーマを “海外進学・キャリア教育”に！



高校生や大学生を対象とした教育旅行は、これまで高校生は現地校訪問、大学生は大学付属の語学学校で一般英語の学習を中心に実施されてきた。ところが昨今、高校ではSGH(スーパーグローバル・ハイスクール)やSSH(スーパーサイエンス・ハイスクール)などにおいて、ハイレベルで特徴のあるプログラムが求められるようになり、現地高校生との折り紙・習字・和太鼓などの文化交流、また英語学習も単純な英会話力の向上だけでは物足りなく、ありきたりになっているのが現状だ。さらに受け入れ校が飽和状態で、新規の学校を増やすのが困難な状況となっている。

そこで差別化を図るためにも、オーストラリアの大規模な高等教育機関において、文化交流の代わりにキャリア教育や海外進学のための大学施設視察といった要素を織り交ぜたり、また英語学習においても、よりアカデミックな内容を取り入れたりするなど、より高度なプログラムが高校や教育委員会から好評を得ている。

ビクトリア州政府では、大学や州立TAFEカレッジ等を活用したアカデミック英語＋キャリア教育、または海外進学視察のプログラムが実施できる学校を紹介している。

このプログラムのお問い合わせは、
ビクトリア州政府オフィス・眞田 makoto.sanada@global.vic.gov.au まで

時間	月	火	水	木	金
午前	ウェルカム オリエンテーションと キャンパスツアー	【グループ1&2】 英語クラス:発音	メルボルン博物館 Road to Zero program	学校訪問	特別講義
	現地の生徒とランチ	ランチ	ランチ	ランチ	ランチ
午後	【グループ1&2】 英語クラス: 一般的な英語	【グループ1&2】 英語クラス: プレゼンテーション スキル	ヒールズビル・ サンクチュアリー へ過足	学校訪問	サイエンス・ワークショップ 【グループ1:物理 グループ2:自然災害】
		オーギー式 フットボール体験			生徒による プレゼンテーション
		ホームステイ先へ 送迎			フィードバックセッションと フェアウェル

メルボルンのおすすめ素材

オーストラリア最初の世界文化遺産

王立博覧会場とカールトン庭園

1880年に開催されたオーストラリア初の万国博覧会のために建設され、当時の万博の歴史を垣間見られる建造物として、2004年にユネスコ世界文化遺産に登録された。美しいビクトリア様式の建物で、オーストラリア初の連邦議会が開催された場所でもある。ガイドツアーによる内部見学も可能。メルボルン博物館に隣接しているため、セットで訪れたい。
museumvictoria.com.au/reb



開拓時代を走る最古の蒸気機関車

パフフィンビリー鉄道

機材運搬のため、19世紀初頭に敷設されたオーストラリア最古の蒸気機関鉄道。開拓時代の面影を残す蒸気機関車として、900名以上のボランティアにより運行が再開された。全長25kmの沿線には、温帯雨林や長さ85mの木製トレススル橋などの見所が満載。グループには250名までの貸し切り、ランチやディナーのアレンジも可能だ。
puffinbilly.com.au



ファームステイで酪農・農業体験

ダウンアンダー・ファームステイズ

ビクトリア州ではメルボルン近郊のカイントンやバララットの牧場や農園を紹介。代表が日本に滞在していたこともあり、日本人学生の特徴を良く把握している。受け入れ人数は最大500名と、大型の研修旅行にも対応可能。滞在できるファームは、牧場や農園など多彩なラインアップ。各生徒は安心の環境の中で思う存分ファーム生活をエンジョイできる。ファーム滞りとステイ先での交流は、生徒達にとって学習以上の貴重な体験となるはずだ。
www.downunderfarmstays.com.au



ペンギンパレードで学ぶ自然保護

フィリップ島ネイチャーパーク

野生動物を保護しているフィリップ島には約3万2000羽の世界一小さな「リトルペンギン」をはじめ、コアラやワラビーなどが自然のままに生息している。特にペンギン保護区でのペンギンパレードは、日没後にリトルペンギンが海から陸へ戻っていく姿を観察できる感動体験だ。島の東部にはコアラ保護区や州で最初の農場が現存するチャーチル島などの見所もある。
www.penguins.org.au



ビクトリア州政府観光局

電話(東京) 03-6257-1080 ウェブサイト jp.visitmelbourne.com Email japan@visitvictoria.com.au



西オーストラリア州
WESTERN AUSTRALIA

オーストラリア教育旅行特集

持続可能な自然の島で再生可能エネルギーを学ぶ

“世界で最も住みやすい街”にランクインしている州都、パース。最先端の街づくりと豊かな自然が融合した街は教育旅行にも最適で、今年9月には念願の直行便も就航した。ここでは、SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)のテーマを包括したさまざまな教育旅行プログラムを紹介。手つかずの自然が残るロットネスト島では、再生可能エネルギーを学ぶツアーが高い関心を集めている。



クオッカとセルフィー(自撮り)を



独自の生態系を守る自然保護の島

パースの沖合い約19kmに浮かぶロットネスト島は、東西約11km、南北約4.5km。本土と切り離されているため独自の生態系を維持しており、A級自然保護指定の国立公園に指定されている。

島にはさまざまな動植物が生息しており、オットセイやアシカ、バンドウイルカなどの海洋生物をはじめ、陸にはこの島にしか生息しない有袋類のクオッカがあり、近年クオッカと一緒に写真を撮るのが流行っている。

島へのアクセスは、フェリーでパース市内から約1時間半、フリーマントルから約30分。島内は自動車の乗り入れが規制されているため、旅行者の足となるのはバスツアーか自転車だ。十分に日帰りできる距離だが、ホテルからドミトリーまで宿泊施設も充実しているので、宿泊を検討するのもいいだろう。



ドイツ製の風力タービンが電力を供給

風力と太陽光で45%の電力を供給

近年、CO2をはじめとする温室効果ガスの排出削減が国際的な課題になっている。ロットネスト島では早くから再生可能エネルギーの創出に取り組んでおり、この分野で国内外から注目を集めている。



ソーラーパネルが並ぶ丘の風景

例えば電力はディーゼル発電がメインだが、1979年から風力発電に取り組み、現在はドイツ製の風力タービンで島の電力の約30%を供給。2016年には太陽光発電を取り入れ、8000枚に及ぶソーラーパネルで600KWを出力して島の電力の約15%を供給している。つまり、風力と太陽光の再生可能エネルギーで、実に島の45%の電力をカバーしているのだ。

海水を風力で淡水に

また、1995年からは海水を淡水に変える装置を導入した。結果としてきれいな水を1日に約50万ℓ作り出すことに成功している。現在、飲み水以外はすべて海水を淡水化してまかなっており、生活污水も島内の施設で処理。ゆくゆくは下水も淡水化していく目標を掲げている。

2012年には島の最西端、ウエストエンドに遊歩道が完成した。実はこれ、牛乳のボトルやプラスチックの袋など再生利用可能な素材で造られている。車椅子も通行可能だが、設置面積を極力抑え、このエリアに生息するミズナキドリに悪影響が及ばないように配慮したのもロットネスト島らしい。

SDGs 6番、7番の理想を実現

教育旅行グループには、島を1周するだけで再生可能エネルギーを間近に学ぶことができるプログラムが用意されている。SDGsも6の水、7のエネルギー、14の海洋資源、15の陸上資源をテーマにすることができ、特に水やエネルギーについてはこれほど当てはまるモデルエリアもないだろう。

またロットネスト島では、ほかにも植樹プログラムやビーチの清掃ボランティアなど多彩なプログラムを用意している。

ロットネスト島の徹底した自然保護と再生可能エネルギーの取り組みは実に先進的。島自体が持続可能な機能を有しており、学習素材として申し分ない。

西オーストラリア州政府観光局

西オーストラリア州では、日本からの教育旅行グループを積極的に受け入れている。他州と異なり、現地校訪問やホームステイは州政府が認定した留学エージェントやツアーオペレーターが斡旋。各社とも効果的な交流プログラムを開発しており、公立校、私立校ともにニーズに合った学校を手配することができる。また、1985年設立の民間教育機関、アングリカン・スクール・コミッション(ASC)の英国国教会系の学校も、日本

からの学校訪問や生徒の受け入れに熱心だ。

西オーストラリア州政府観光局では、州政府公認の留学エージェント、Gold Intercultural Learning(GIL)と日本マーケット向けにSSH/SGH/SDGsプログラムを開発してきた。なかでもGILとカーティン大学が連携したSTEMプログラムは注目を集めており、2020年末までにはSTEAMプログラムも開発する予定となっている。

現地校訪問&ホームステイ

質の高い学校や一般家庭で過ごす貴重な時間



クッキングクラスに参加

現地校訪問 | 同年代との交流を重視

西オーストラリア州では、州政府公認の留学エージェントやツアーオペレーターが日本の教育旅行グループに現地校を斡旋している。アングリカン・スクール・コミッション(ASC)の学校も同様で、教育旅行グループの規模や目的、訪問時期などのニーズに合った質の高い学校を的確にマッチングしてくれる。

現地校を訪問する際は単なる授業参加ではなく、体育や音楽、クッキング、演劇などのクラスに参加し、言葉の壁を越えて学びの場を共有するのが人気のスタイル。同世代との関わりは強く印象に残るため、有意義な時間を過ごせるよう工夫を凝らしている。ほかにも、日本語を第二言語とするクラスを訪問するのもおすすめだ。

ホームステイ | 厳選された家庭を紹介



家族の一員として過ごすホームステイ

西オーストラリア州では修学旅行のような大型グループでもホームステイの受け入れができ、他州では難しくなった1家庭に1人の斡旋も可能だ。1人での滞在は言葉の面でハードだが、その分英語の力がつき、大きな自信につながると希望する学校も少なくない。もちろんホストファミリーには厳しい基準を設けており、家族構成や年齢、趣味、アレルギーなどを細かく考慮している。

文化&野生動物

先住民族の文化を学び、固有の動物を観察



ディジュリドゥの演奏を体験

キングスパーク | 先住民族の文化を学ぶ

パース市内に位置するキングスパークは、総面積約400haの広大な公園だ。地元の人々の憩いの場であり、観光名所であるだけでなく、学生の課外活動に利用されることも多い教育的要素も含まれている。

ここではパースの街並みを一望し、記念撮影を行うのが恒例だが、豊かな自然の中で先住民族アボリジナルの文化を学ぶことができる。ブーメランに先住民族伝統のペイントを施したり、ダンスで自然と共生する意味を表現したり。伝統楽器ディジュリドゥなど先住民族の演奏も体験できる。

Kings Park and Botanic Garden
<https://www.bgpa.wa.gov.au/kings-park>

カバシャム動物園 | 有袋類との触れ合いを



コアラやウォンバットと写真撮影

コアラやウォンバットなどの有袋類を間近に見たり、カンガルーの餌付けなどができる動物園。園内はオーストラリア全土の縮小版で、4つのエリアを周ることで各地に生息する動物を確認できるのがユニークだ。夜行性の動物や有袋類など動物の名前を英語で調べる事前学習をしておく、より興味深く学ぶことができるだろう。

Caversham Wildlife Park
<https://www.cavershamwildlife.com.au/>

農業&ファームステイ

豪州の食文化や異文化に触れる絶好の機会



大量の小麦は日本でうどんに

農業 | 自給率が高く日本にも輸出

西オーストラリア州の主要産業の一つは農業だ。さまざまな土壌や気候に適した農産物の生産を行っているほか、乾燥地帯に農業技術を伝えるなど、世界の農業をリードするポジションにもある。

その上、農産物の約8割を輸出しており、国際的な評価も高い。主な輸出物は、穀類、豆類、肉、牧草、羊毛、乳製品、蜂蜜、卵など。日本人の口に合う小麦の品種改良に成功したことで、日本の讃岐うどんは今や8~9割を西オーストラリア産の小麦に頼るまでになっている。

ファームステイ | 農作業を介して交流



ファームでフェンス作りを手伝う学生

オーストラリアの教育旅行ではすっかり定番となっているファームステイ。西オーストラリア州でも多くの農家が積極的に日本人学生を受け入れている。ホストファミリーと過ごす時間は限られているが、シャイな日本人学生でもファームステイなら農作業や家畜の世話を介してホストファミリーと交流を図ることができる。

代表エリアはパースの南約150kmのバンバリーやパースの東約250kmのケレベリンなど。修学旅行の場合は1泊か2泊だが、長く滞在するほど生徒に強いインパクトを残し、大きな学習効果を得ることができる。



西オーストラリア州
WESTERN AUSTRALIA

オーストラリア教育旅行特集

最先端の大学で大学生リーダーと STEM プログラム

現地校訪問やホームステイ、ファームステイといった現地の人々と交流するプログラムに力を入れている西オーストラリア州。近年はオーストラリアでも上位に位置する大学と共同運営プログラムを開発し、日本の教育旅行グループに提供している。特に興味深いのはカーティン大学との STEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) プログラム。大学のキャンパスで大学生と一緒に参加する体験型サイエンスアクティビティで、語学や科学など学びの要素を多分に含んでいる。

現地大学生をグループリーダーに

大学との共同運営プログラムで人気を集めているのは、大学生をリーダーとする小グループ制のグループワークだ。修学旅行のような大型グループでも小グループに分けて受けることが可能。小グループならリーダーの目が届きやすく、生徒も発言しやすいのがメリット。各自が能動的に参加することで英語への自信を身につけることもできる。

また、グループワークで大いに役に立つワークブックは、熟練の教師が生徒のレベルや目的に合わせて制作している。各プログラムに合った項目を網羅し、遊びの要素も取り入れているのが特徴。カーティン大学との STEM プログラムでもグループでワークブックを完成させていくため、自ずと協調性や積極性が身につく。グローバルな意識を育むことができると高い評価を得ている。



大学のキャンパスで体験アクティビティ

本校をベースに置くカーティン大学は、海外の分校を含めると5万人以上の生徒を有するマンモス大学。STEM プログラムは同大学のサイエンス・エンジニアリング学部が共同開発した。半日スケジュールの場合、オリエンテーションの後にグループに分かれ、まずは大学生のリーダーとキャンパスツアーをスタート。構内を案内してもらいながら、ゲームやランチを共にすることで緊張をほぐす目的もある。



その後、耐久性を競うフローティングプラットフォームや飛距離を競うウォーターロケットといったアクティビティを体験。仕組みを考えたり、実験をしたりとアクティブに関わる内容となるため、文系の生徒でも楽しみながら参加できるのが魅力となっている。

また、STEM プログラムからSDGsのテーマも派生する。例えばフローティングプラットフォームは温暖化で国土が沈む問題を解決するため



のプログラムで、13番の気候変動が大きく関わっている。STEM プログラムはただ実験をするだけでなく、頭を使って考える訓練という目的もあり、新しい目線で世界を捉えられる国際人としての成長を促す機会にもなっているのだ。

大学生リーダーと課外授業も

大学生をグループリーダーに小グループで活動するプログラムを大学の外で行うことも可能だ。例えば、パース市内やフリーマントルを

舞台に行う「アメージングレース」もその一つ。街の人々にインタビューしながらワークブックをこなしてゴールへ向かっていくもので、こちらも自然と積極性や協調性が養われる仕組み。英語の言い回しは大学生がサポートしてくれるので、実践的な英語力を磨くこともできる。

ほかにも、パース市内のキングスパークに場所を移し、先住民文化アボリジナルの文化を体験するアレンジも可能。教育旅行グループの規模や希望に沿ったリクエストに応じることができる。

ゴールド インターカルチュラル ラーニング

パースを拠点とする州政府の正規留学エージェント。2004年の開業以来、西オーストラリア州政府教育省をはじめ、各学校、ホストファミリーと密接な関係を築き、日本人学生に最適な海外体験プログラムを提供している。小学生から大学生まで、また個人から大型グループまで対応可能で、受け入れ実績は年間2000名を超える。ホームステイは5000軒の家庭と契約しており、いずれも同社スタッフが1軒ずつ視察

して厳しい基準をクリアしている。アングリカン・スクール・コミッション(ASC)のGSAでもある同社は、教育旅行グループのニーズに合った質の高い現地校の斡旋が可能。同社では、これから生きて英語や異文化を学び、「国際人」として未来を担う若者を応援していく。ロットネスト島やカーティン大学とのSTEMプログラム、現地校訪問、ホームステイなど、具体的な相談は下記まで。

Gold Intercultural Learning

TEL 61-8-9444-7687 URL <http://www.goldil.com.au/jp/> Email ryugaku@goldil.com.au
担当 Yuka Kodama (Operations Manager)

天然資源&造幣局

金鉱山から造幣局へ、金の成り立ちを見学



ダイナミックな鉱山の現場を目の当たりに

天然資源 | 北部は鉄鉱石、南部は金

西オーストラリア州は鉱物資源の宝庫で、鉱物・石油・ガス産業は州の基幹産業になっている。特に北部にはピルバラ地塊といわれる広大なエリアにいくつもの鉱山があり、トムプライスやニューマンでは鉄鉱石の採掘が活発だ。大規模な露天掘りは見学が可能で、天然資源や環境について地球規模で考察できる機会となっている。

パースを拠点に天然資源を学ぶなら、南へ約130kmのボディントンに位置する金鉱山と造幣局を訪れる日帰りツアー「Mine to Mint」がいいだろう。タイヤだけで直径4mもある巨大な運搬トラックが行き交う現場を見学し、工場では粉碎された鉱石が金や銅に分離される様子を見学することができる。

造幣局 | ゴールドラッシュの歴史を体感



ツアーの後半はパース市内の造幣局へ向かう。ここは1899年に英国王室造幣局の支局として開設され、ゴ

ギネスに認定された1tのカンガルー金貨は圧巻
ールドラッシュとともに大きく発展した所。館内ではコインの製造工程や金の延べ棒造り、100年前の採掘者の生活を再現した展示室を見学できる。

Perth Mint

<https://www.perthmint.com/mine-to-mint.aspx>

自然科学

自然の神秘、ピナクルズとストロマトライト



日々堆積と風化を繰り返す奇岩群

ピナクルズ | 地球の歴史を物語る大地のアート

ピナクルズは、パースの北約250kmのナンバン国立公園広がる奇岩群。砂漠にいくつもの奇岩が無造作に立ち並び光景は「荒野の墓標」の異名をもつ。

この岩は地面が隆起したのではなく、かつて海だった場所に石灰岩質の土台が築かれ、長い年月の間に貝や砂、植物、虫の死骸などの堆積物が積もって風化したもの。世界遺産に登録されていないのは、今も風化により日々その形を変えているためだ。ピナクルズ・ディスカバリー・センターでは、ピナクルズの成り立ちや周辺に生息する動植物のジオラマなどを展示しているので分かりやすい。センターにはギフトショップも併設されている。

ストロマトライト | 世界最古の生物



生命体とは思えないストロマトライト
ピナクルズに向かう道中にはレイク・セデスでストロマトライトの観察も可能だ。これは藻の一種で、酸素形成の起源とされている。また、小グループなら石灰石が砕けた白砂のランセリン砂丘でサンド・ボーディングを体験するのもいいだろう。

Pinnacles Desert Discovery Centre

<https://parks.dpaw.wa.gov.au/site/pinnacles-desert-discovery-centre>

力学&天文学

ガリレオの重力実験と南半球の天文を



センターのシンボルとなっている斜塔

力学 | 物体の落下速度を自ら証明

パースから北へ80kmのジンジンには、重力ディスカバリーセンター&天文台があり、学生の研修を受け入れている。重力波を専門とする観測所だが、展示施設もあり、物理を勉強している学生には格好の学習素材といえよう。

ここで目を引くのは、高さが45mもある斜塔だ。イタリアのピサの斜塔を模したもののだが、ここでは塔の上から重さの異なる水風船を同時に落とすと同時に着地するという万有引力の実験を体験することができる。重いものの方が早く落ちるといふアリストテレスの説をくつがえしたガリレオの説、「物体の落下速度は重さによらず一定である」を自らの実験で証明できる。

天文学 | 大口径で観察、南半球の星



本格的な望遠鏡を操作できる

多くの天体ファンが足を運ぶ天文台では、日本では見ることができない南半球ならではの星座を観察したい。見つけにくいとされる南十字星も、口径65cmの巨大な望遠鏡なら容易に見つかる。天体観察は夜になるので、ピナクルズの帰りにスケジュールするのがいいだろう。

Gravity Discovery Centre

<http://www.gravitycentre.com.au>

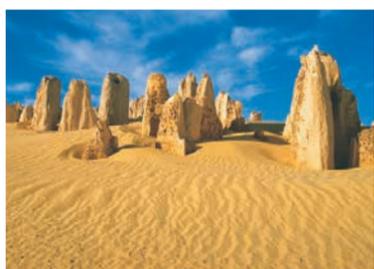
WESTERN AUSTRALIA

www.westernaustralia.com



ANAの直行便で、 成田から西オーストラリア州パースへ

洗練された街並みと美しい自然が調和する、西オーストラリア最大の都市パース。世界遺産の絶景から、美味しいワインにシーフードまで、心ゆくまで堪能できます。乗り継ぎなしのスムーズな空の旅なら、日本から唯一の直行便を運航するANAで。



詳しくは…
www.ana.co.jp

ANA Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER